

令和4年度習志野市災害医療本部及び応急救護所訓練 実施報告

1. 日 時

令和4年9月11日（日）8：30～12：00

2. 会 場

- (1) 災害医療本部訓練：市庁舎グランドフロア協働スペース
- (2) 応急救護所訓練：第一中、第二中、第七中、保健会館

3. 目 的

各応急救護所における設置・運営訓練および災害医療本部、各応急救護所（市内4ヶ所）間の無線を使った情報伝達訓練を実施し、各場所・各自の役割や課題の共有を図ることを目的とする。

4. 参加機関

習志野市医師会、習志野市歯科医師会、習志野市薬剤師会、習志野市アマチュア無線非常通信連絡会

5. 参加者

	災害医療本部	応急救護所				避難所健康管理	合計 (名)
	グランドフロア	第一中学校	第二中学校	第七中学校	保健会館		
医師会	1	3	4	2	3	—	13
歯科医師会	3	3	3	4	1	—	14
薬剤師会	1	4	2	4	3	—	14
アマチュア無線非常通信連絡会	1	1	1	2	1	—	6
市職員	10	5	6	5	5	4	35
合 計	16	16	16	17	13	4	82

※習志野健康福祉センター 田中副センター長が見学（災害医療本部・保健会館応急救護所）

6. 実施方法

防災訓練計画書のとおり

7. 各会場での反省会・職員報告からみた今後の課題

今年度の訓練は、3年ぶりの訓練となることと、コロナ禍を踏まえ、訓練規模縮小とし、救急告示病院（習志野第一病院、津田沼中央総合病院、谷津保健病院）と災害拠点病院（済生会習志野病院）を除く、医療本部と応急救護所とした。

また、救護所設営手順や発電機・無線等の物品の扱い、校舎の建て替えや感染予防等を踏まえたレイアウトの見直し等基本的な内容の確認を中心に実施した。

これらの基本的な内容については全ての参加者は概ね理解でき実施できた。

今回、無線通信は音声のみ実施したが、医療本部における情報伝達の中で、特に病名や薬名は聞き取りづらく、トリアージ内容については情報に洩れが生じやすい。また、情報伝達において待ちが生じた。今回の訓練を通じて、音声無線の限界や画像伝送の有効性が再確認された。

【今後の課題】

①各応急救護所ともに、傷病者受け入れから医療機関への搬送までの流れの詳細について混乱が見受けられた。詳細にルールを設けると混乱をきたすため、要点の整理が必要である。

②医療本部では、医師会・災害医療コーディネーター・薬剤師会・行政の各担当者共に把握したい情報は多岐にわたる。それらの情報を効率的に共有するため、情報の流れや医療本部の配置・ホワイトボードの活用等により効率効果的に対応できないか等情報の流れを見直す必要がある。

③各会場ともに、次々と入ってくる情報をどのようにまとめ、どのように共有するかが課題である。いかに効率的に情報を整理し、従事する者皆が確認できる流れを見直す必要がある。

以上3点があげられる。

上記を踏まえ、各所を見直し、次年度の訓練や有事に備え準備していく。